

産地戦略

実施期間 令和4～5年度

実施主体 栃木県
都道府県 栃木県
対象地域 佐野市
対象品目 いちご

新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

本県のいちごの生産現場では、年間を通してうどんこ病の発生が課題となっている。うどんこ病の慣行防除は、4～6月及び9～11月までが重点防除期間で、栽培期間中に化学農薬による防除を行っている。農薬散布は生産者の労力等が大きいことに加え、一部の病害虫に薬剤抵抗性の発達が懸念されるなど、化学農薬以外の省力的で抵抗性が発達しない防除手法が求められている。

近年、いちごのうどんこ病を抑制するための物理的防除手法として、紫外光（UV-B）照射による病害抵抗性誘導が報告されている。UV-Bをいちごに照射することにより、農薬使用量の削減や、生産者の労力の負担軽減を目指す。

現在の栽培体系 栽培マニュアルに記載のとおり



グリーンな栽培体系 栽培マニュアルに記載のとおり

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	16 ▶	16	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.0486 ▶	1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.0486 ▶	1	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.0486 ▶	1	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬によるうどんこ病の抑制	紫外線（UV-B）照射によるうどんこ病の抑制	・化学農薬使用量の低減 ・農薬散布回数の低減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	うどんこ病農薬の散布回数（%）	100 ▶	60	マニュアルの導入事例より算出

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

- ・講習会や現地検討会等の開催により、技術の周知、推進を図る
- ・導入生産者に対し、関係機関と連携し技術指導を行う

関係者の役割

関係者名	安足農業振興事務所	JA佐野苺部会	パナソニック（株）	
役割	技術指導、普及推進	技術導入、検討	技術指導、情報提供	

その他